

第1回 住まい・まちづくり担い手支援事業研修会

## 地域資源をいかしたまちづくり

講師：福井 隆 氏（東京農工大学大学院客員教授 地域生存支援 LLP 代表 NPO 法人日本エコツーリズムセンター理事）

講師：真島 俊一氏（(株)TEM研究所代表 日本生活学会前副会長 道具学会理事、トヨタ財団研究助成団体審査委員）

日時：10月26日（火） 13:00～14:30

会場：昭和村役場

私たちは、国交省の平成22年度長期優良住宅等推進環境整備事業で、糸井地区の旧北勢多郡役所（旧糸之瀬村役場）を中心とした地域の集落景観調査とそれらをいかしたまちづくりのための調査を行っています。その中で、私たちは地域資源として最も重要である農業と、それによって形づくられてきた集落景観とが上手く融合したまちづくりのあり方について探っています。今回、活動の一環として、全国で農山村の地域資源をいかしたまちづくりを実践されているお二人の先生の講演会を企画しましたところ、農業委員会の席でお時間を頂ける事になりました。つきましては、お二人のご紹介とお話の方向について以下に概要をお知らせ致します。

福井先生は、全国で農山村の地域振興・まちづくり等に数多くの活動をされ、特に、農業を始めとした、様々な地域資源の掘り起こしや、それらのブランド化を通じて次世代に通じるまちづくりの提言をされています。

昭和村は、『日本で最も美しい村』連合に加盟したことで判るように、生き生きした農業があり、豊かな自然景観や集落景観にも恵まれていると思います。今回は、昭和村が持っている農業を中心とした地域資源を有効にいかし、次世代をみすえたまちづくりのあり方についてお話し頂きたいと思っています。

真島先生は、全国各地の生活文化を中心とした調査・研究活動を行っており、地域固有の伝統文化をいかしたまちづくりの提言や整備事業に携わっています。そして、昭和村にはトヨタ財団研究助成成果発表の研究集会にお出で頂いています。

今回のお話しは、生活文化を研究されている立場から、一方の地域資源である集落景観と民家から考える、これからの生活像についてお話しして頂きます。

これからの、まちづくりに貴重なお話しが伺えると思いますので、是非、ご参加下さい。開催にあたりまして、農業委員会・村議会をはじめとして役場の方々のご配慮に感謝致します。

主催：NPO法人 街・建築・文化再生集団

連絡先：〒371-0035 前橋市岩神町2-7-5 tel:027-210-2066

助成財団：一般社団法人 住まい・まちづくり担い手支援機構

## ■略 歴

### □福井 隆氏

東京農工大学大学院 客員教授

地域生存支援 LLP 代表

個人事務所 リーフワーク代表(マーケティング支援等)

NPO 法人日本エコツーリズムセンター理事

NPO 法人えがおつなげて理事(元)

財団法人グラウンドワーク協会事務局次長(元)

株式会社ゼロ取締役(元)

ジャーデン マセソン株式会社社員(元)

昭和 29 年生まれ 関西大学社会学科卒業(社会心理学・社会調査専攻)

### ●平成 21 年度業務実績

- ・東京農工大学(農学部非常勤講師)「地域活性化プログラム」農業環境工学特別講義Ⅲ 授業実施(修士 1 年)テーマ「全国における農山村地域活性化の実態と可能性」
- ・農林水産省「農山漁村地域力発掘支援モデル事業」関東ブロック委員会副委員長
- ・同 農山漁村地域力発掘支援モデル事業 全国研修会コーディネーター
- ・同 農山漁村地域力発掘支援モデル事業 北海道地区研修会コーディネーター
- ・同 農山漁村地域力発掘支援モデル事業 北海道日高町アドバイザー
- ・同 農山漁村地域力発掘支援モデル事業 三重県大紀町アドバイザー
- ・農林水産省「農林水産物・食品地域ブランド化支援事業」広島世羅町アドバイザー
- ・総務省「地方の元気再生事業」和歌山県北山村協議会メンバーとして事業実施
- ・同事業 宮城県栗原市栗駒地区 協議会委員
- ・国土交通省「新たな公」三重県南伊勢町相賀浦地区 計画づくり事業受託実施
- ・経済産業省「地域ブランド推進アドバイザー」東北ブロック(岩手牛・岩手短角牛)
- ・経済産業省「地域ブランド推進アドバイザー」九州ブロック  
(奄美黒糖焼酎・天草黒牛・五島うどん・阿蘇たかな漬・久留米餅)
- ・経済産業省「ブランド化支援事業」島根県隠岐諸島海士町ブランド化支援
- ・和歌山県「水土里のむら機能再生推進支援事業」受託実施(5ヶ所)
- ・三重県「集落機能再生きっかけづくり事業」受託実施(8ヶ所)
- ・三重県「自治会館組合研修事業・自治創造塾」コーディネーター
- ・三重県研修センター「ふるさと学(地元学)研修」講師
- ・三重県大台町「フォレストピア」再生支援事業受託実施

## □自己紹介

昨年度の事業において、特に地域の内発的な計画づくりに携わった。すなわち、地域の人たちの声なき声を吸い上げ、自分たちの地域をどうするかについて合意形成を促しながら指導をおこなった。日本全国の多くの地域では、「ここには何もない」と誇りを失ってしまっているのが通常である。しかし、それぞれの足下を見直すことから「何もない」と思われていた地域でも、未来への希望をつくることは可能であることに気づいていただき、新たな一步を踏み出す支援をおこなってきた。

これまで、約7年間にわたってこのような仕事を全国で積み重ねて来た。和歌山県と三重県だけでも約60か所の集落で支援事業に携わった。おそらく全て加えると100か所の「現場」での、地元学を始めとするさまざまなお手伝いをしてきたと思う。

外資系商社を退職後、最初は流通業のコンサルタント的な仕事をおこなってきたが、実際の流通の現場での理不尽な状況に疑問を感じ、仕事の中身に達成感を感じなくなったのが、この世界へ入る動機となった。具体的には、「外部不経済」と指摘される発展途上国からの搾取によって成り立つ流通業の利益体質。また、数の論理による経済活動など、疑問を感じる事はたくさんあった。いわゆる勝ち組の中で仕事をしていたのだが、お金だけが価値であることに嫌気がさしたというのが正しいかと思う。

そのような時出会ったのが、環境共生型のコーポラティブハウス。できるだけ人体に影響のある化学物質を排除し、環境配慮型の建物を協働でつくるといったもの。そこに参加し、色々な問題を知ることになった。そして、日本の中山間地のさまざまな問題や課題を知り、少しずつ仕事の内容を変えていった。最初は、縁あって財団法人日本グラウンドワーク協会の事務局次長として採用いただき、少しずつ各地の人たちとつながりをつくっていった。これまで培ってきた、市場とどうかかわればうまく行くかと言うノウハウを中山間地や離島の課題に生かすことを目指したと言えれば良いでしょうか。また、それまでやってきたことが現場での市場調査に基づく流通マーケティングであったことも幸いし、常に現場からの積み上げで仕事を組み立て、たくさんの方から評価を頂いている。東京農工大学の客員教授になったのも、そんな地域の現場を知っているということが評価され、大学の知恵やノウハウを地域の課題に役立てるといふ文部科学省の「地域コーディネーター」として農工大に採用されたのがきっかけである。

そして、地元学提唱者の吉本氏との出会いが、より地域の暮らしへと目線を移す大きなきっかけとなった。それは、それぞれの地域には風土に向き合い、持続可能な暮らしをつくる知恵が詰まっていることを知り、それを生かすことこそ地域の生きる道であると確信をしたからである。地域の資源をお金に変える事だけであれば、「ここには何もない」と嘆くだけになることも、生きるということに焦点を当てれば、ほんとうに豊かな知恵が詰まっているからに他ならない。そんな思いから、何もないと言われる地域ほど、出る幕があるような気がする。それこそ、私の「お役目」のような気がします。地域は「ぐずぐずとしか変わらない」というのは、結城登美雄さんの言葉ですが、まさにぐずぐずと自ら変わる地域の後押しをやっているような感じだ。私にとっては、原宿や渋谷が流通現場の最先端であったのが、中山間地や離島が最先端になったと言えれば分り易いでしょうか？

そのようなことから、最近特に多い仕事が「地域」を生かす、地域ブランド化の戦略構築である。ここに、地域再生の大きな可能性を感じ、実際の現場で仕事をすることに意義を感じ行動している。

#### □真島 俊一氏

1947年 栃木県生まれ。

1970年 武蔵野美術大学建築学科卒業。

1974年 (株)TEM研究所代表に就任、現在に至る。主な役職、日本生活学会前副会長。道具学会理事、トヨタ財団研究助成団体審査委員など。

#### 主たる著書と論文

1975年 『南佐渡の漁村と漁業』共著、小木町（第1回日本生活学会賞受賞）。

1986年 『世界の建築術』共著 彰国社（日刊工業新聞社／第3回技術図書文化賞受賞）。

1998年 「佐渡宿根木を中心とした博物館、町造り、千石船の復原など一連の伝統文化創造活動に対して」（日本文化芸術財団／日本伝統文化振興賞受賞）（受賞関連図書）-1993、95年『宿根木の町並と民家-1.-2.小木町』、1998年「佐渡の北前型弁財船／復原した大板構造船-S/C 第32夏号」、1985年『図説 佐渡金山』共著 河出書房新社 などー

1999年 『台所の百年（生活学23）』共編著 ドメス出版（2000年神戸賞受賞／消費者問題神戸会議）

2003年 『棚田の謎』共編著 農文協（2005年棚田学会賞受賞）

#### その他の著書

1999年 『生活空間論（講座生活学6）』共編著 光生館

『生活学事典』共編著 TBSブリタニカ

1982年～『図説 県民の歴史シリーズ』特集 共著 河出書房新社など

（今回のシンポの関連著書）、群馬県「養蚕・小さな牧畜」その経営システム。大正時代。河出書房新社。刊1989年

#### TEM 研究活動の概要

1969年に設立。以来、地域の生活文化の特徴を発見し振興する視点を基本にして、T（道具、技術）E（環境）M（人間）の三つの要素を地域から抽出し、次のような業務を展開している。

- (1) 生活と文化構造の調査研究
- (2) 地域研究とその振興計画
- (3) 国土開発史の調査研究
- (4) 文化財の調査研究と保存活用計画
- (5) 建築設計と博物館等の展示設計など

参照 <http://www.tem-jp.net/>